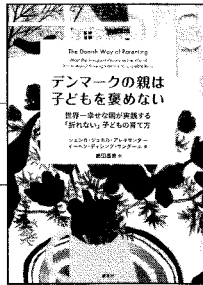


本書は「子育て理論の本」である。「子育てこそがデンマークが、幸福な国に選出され続ける主たる理由だと主張している。そして、デンマークの子育て哲学の核となるのが、「ZPD(最近接発達領域)」という概念である。つまり、子どもは学習と成長のために自分に合った距離感と自分に合った助けが必要だという考え方である。

著者は親と教師が互いに支えあって、デンマーク流を推進し、幸せでレジリエンスの高い子どもを育てることができると信じている。各章は、「PARENT」の頭文字をとって「Play(遊ぶ)」「Authenticity(ありのままを見る)」「Reframing(視点を変える)」「Empathy(共感力)」「No Ultimatum(叩かない)」「Togetherness(仲間と心地よくつながる)」に分類され、この内容でデンマークの特



ジェシカ・アレキサンダー・ジョーディン・アレキサンダー
イーベン・ティシグ・サンダー 著
鹿田昌美 訳
集英社 1620円 03-3230-7755

デンマークの親は子どもを褒めない
世界一幸せな国が実践する
「折れない」子どもの育て方

色ある教育について述べられている。例えば、「遊び」の章では、自由遊びは「逆境から立ち直る力」レジリエンスが学べる」とし、健康で有能な大人は、レジリエンスを持ち、感情の抑制とストレスへの対応がうまくいっているとされている。1932年に誕生したデンマーク発の玩具Legosは、

(leg godt)よく遊ぶ)デンマーク語の造語であり、想像力を使った自由な遊びが主流である。このレゴは、あらゆる年齢の子ども達が使用でき、ひとりでも友達と遊ぶこともできることでZPDの概念と似ている。

一方、「ありのままを見る」章では、ありのままに褒める。筆者は、過剰な褒めことばは内容がなく、子どもの心に響かないと考えており、ありのままに褒めることや、プロセスを褒める、努力を褒めることで、将来的に子ども達が高い自己評価をすることができる。と

言及している。
(愛知教育大学教授・高橋美由紀)